

『振動工学 応用編』第4刷用正誤表

このたびは本書をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書には下記のような訂正・変更箇所がありました。ここに訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

(赤字で訂正・変更箇所を示しています。青字は訂正・変更の補足説明です)

Op.29 式(9.114) : $B = -Ae^{-2jkl}$

(負号が抜けていました)

Op.29 式(9.115) :

$$u = Ae^{j(\omega t - kx)} - Ae^{j\{\omega t + k(x-2l)\}}$$

$$= A \left[e^{-jk(x-l)} - e^{jk(x-l)} \right] e^{j(\omega t - kl)} = -2Aj \sin k(x-l) e^{j(\omega t - kl)}$$

(1行目の「B」は「A」でした。2行目の最右辺の係数は「-2A」ではなく「-2Aj」でした)

Op.30 式(9.118) : $u = -2Aj \sin kx \cdot e^{j\omega t}$

(上記と同じく、右辺の係数は「-2A」ではなく「-2Aj」でした)

Op.30 式(9.121) : $u = A \left[e^{j(\omega t - kx)} - e^{j(\omega t + kx)} \right] = -2Aj \sin kx \cdot e^{j\omega t}$

(上記と同じく、最右辺の係数は「-2A」ではなく「-2Aj」でした)

Op.110 例題 12.2 の解答の中の式 :

$$(m + m_a) \ddot{x} + kx = m\varepsilon\omega^2 \cos \omega t + m_a r_a \omega^2 \cos(\omega t + \delta)$$

$$(m + m_a) \ddot{y} + ky = m\varepsilon\omega^2 \sin \omega t + m_a r_a \omega^2 \sin(\omega t + \delta)$$

$$x = \frac{m\varepsilon\omega^2}{k - (m + m_a)\omega^2} \cos \omega t + \frac{m_a r_a \omega^2}{k - (m + m_a)\omega^2} \cos(\omega t + \delta)$$

$$y = \frac{m\varepsilon\omega^2}{k - (m + m_a)\omega^2} \sin \omega t + \frac{m_a r_a \omega^2}{k - (m + m_a)\omega^2} \sin(\omega t + \delta)$$

(初めの2式の左辺第1項の係数「m」は正しくは「m + m_a」でした。それに伴い、「x=」「y=」の式の右辺の分母の「m」も「m + m_a」となります)

Op.146 式(13.4) : $\omega_0 = \sqrt{\frac{k}{m}}, \varepsilon\alpha = \frac{\beta}{m}$

(2式目の「ε」は「εα」とします。理由は、下記 p.147 の2行目の訂正をご覧ください)

Op.147 式(13.5) : $\ddot{x} + \omega_0^2 x + \varepsilon \alpha x^3 = 0$

(上記により、「 ε 」は「 $\varepsilon \alpha$ 」とします)

Op.147 2行目 :

ここで ω_0 は、もとの式で $\beta = 0$ とおいて得られる線形系の固有角振動数を表すことに注意しよう。また ε は小さい量を明示するためのもので、 $\varepsilon \alpha$ が係数としての意味を持つ。以下、この式に基づいて自由振動を考える。

(下波線部分を追加し、取り消し線の箇所を削除します。「 ε 」を「 $\varepsilon \alpha$ 」とする理由です)

Op.147 例題13.1の解答 :

質点が x だけ変位したとき、弦のひずみ e は、弦の自然長を l_0 として、質点の両側でそれぞれ

$$e = \frac{\sqrt{(l/2)^2 + x^2} - l_0/2}{l_0/2}$$

である。このとき質点に作用する張力 T は、 $-T = A E e$ である。この張力の運動方向の成分は、張力 T に $x/\sqrt{x^2 + (l/2)^2}$ を掛けたもので、これが質点の両側の弦から作用する。したがって運動方程式は

$$m\ddot{x} + 2 A E e \frac{x}{\sqrt{x^2 + (l/2)^2}} = 0$$

となる。この式に、上述の e を代入し、得られた式の左辺第2項を、張力 $T_0 = A E (l - l_0) / l_0$ の
関係を用いて l_0 を消去した式とし、さらに左辺第2項をテーラー一級数展開して x^3 で打ち切ると

すると、運動方程式は

$$m\ddot{x} + \frac{4T_0}{l} x + \frac{8}{l^3} A E x^3 = 0$$

となる。これは式(13.3)の形の運動方程式である。

(ひずみは自然長 l_0 に対してどれくらい変化したかの量なので、初めの「 $e =$ 」の式の分子の「 $-l/2$ 」と分母の「 $l/2$ 」をそれぞれ「 $-l_0/2$ 」と「 $l_0/2$ 」とします。それにより、以下の説明文も下波線部および取り消し線のように変更します)

(以下151ページまで、「 ε 」を「 $\varepsilon \alpha$ 」とする訂正です)

Op.148 下から8行目 : $\varepsilon \alpha = 0$

Op.149 1行目 : $\varepsilon \alpha \neq 0$

Op.149 8行目 : $\varepsilon \alpha = 0$

Op.149 式(13.14) :

$$\omega_0 \dot{a} = \varepsilon \alpha a^3 \cos^3 \varphi \sin \varphi$$

$$\omega_0 \dot{\phi} = \varepsilon \alpha a^2 \cos^4 \varphi$$

Op.150 式(13.15) :

$$\omega_0 \dot{a} = \frac{\varepsilon \alpha a^3}{8} (2 \sin 2\varphi + \sin 4\varphi)$$

$$\omega_0 \dot{\phi} = \frac{\varepsilon \alpha a^2}{8} (3 + 4 \cos 2\varphi + \cos 4\varphi)$$

Op.150 式(13.16) :

$$\omega_0 \dot{a} = 0$$

$$\omega_0 \dot{\phi} = \frac{3}{8} \varepsilon \alpha a^2$$

Op.151 8行目の式 : $\dot{\phi} = \frac{3}{8\omega_0} \varepsilon \alpha a_0^2$

Op.151 式(13.19) : $\phi = \frac{3}{8\omega_0} \varepsilon \alpha a_0^2 t$

Op.151 式(13.20) : $x = a_0 \cos \left[\left(\omega_0 + \frac{3}{8\omega_0} \varepsilon \alpha a_0^2 \right) t \right]$

Op.151 式(13.20)下1行 : ここで $\varepsilon \alpha \rightarrow 0$ とすれば

Op.151 式(13.21) : $\omega = \omega_0 + \frac{3}{8\omega_0} \varepsilon \alpha a_0^2$

Op.154 式(13.34) :

$$(2\varepsilon\zeta\omega)^2 a^2 + \left[(\omega_0^2 - \omega^2) + \frac{3}{4} \varepsilon \alpha a^2 \right]^2 a^2 = (\varepsilon F_0)^2$$

$$\phi = -\tan^{-1} \frac{2\varepsilon\zeta\omega}{(\omega_0^2 - \omega^2) + \frac{3\varepsilon\alpha}{4} a^2}$$

(1式目の左辺第1項の ()²の中に「 ω 」が抜けていました。また同第2項の[]²の中を2式目の対応する項に合わせました)

Op.164~p.165 <式の訂正 (式 (13.55) の2式とも、左辺第4項 ($\varepsilon\alpha$ の項) のカッコの中の「 Q_2 」は正しくは「 Q 」でした) と、式 (13.59) の位置変更による式番号の変更です> :

この結果、 y_1, y_2 を支配する方程式として

$$\begin{aligned} \ddot{y}_1 + \omega_{10}^2 y_1 + 2\varepsilon\zeta(\dot{y}_1 - \omega Q_1 \sin \omega t) + \varepsilon\alpha(y_1 + y_2 + Q \cos \omega t)^3 &= 0 \\ \ddot{y}_2 + \omega_{20}^2 y_2 + 2\varepsilon\zeta(\dot{y}_2 - \omega Q_2 \sin \omega t) + \varepsilon\alpha(y_1 + y_2 + Q \cos \omega t)^3 &= 0 \end{aligned} \quad (13.55)$$

を得る。 ここで

$$Q = \frac{F_{10}}{\omega_{10}^2 - \omega^2} + \frac{F_{20}}{\omega_{20}^2 - \omega^2} \quad (13.56)$$

である。

<p.165の式(13.59)を式 (13.56) としてそのままここに移動し、以下、式 (13.59) まで式番号が一つずつずれます>

式(13.55)を平均法で解くため、 ε を含む係数を0とおいた方程式を考える。この方程式の一般解は、 a_1, a_2, ϕ_1, ϕ_2 を定数として、

$$\begin{aligned} y_1 &= a_1 \cos(\omega_{10}t + \phi_1) \\ y_2 &= a_2 \cos(\omega_{20}t + \phi_2) \end{aligned} \quad (13.57)$$

である。その時間微分は

$$\begin{aligned} \dot{y}_1 &= -\omega_{10}a_1 \sin(\omega_{10}t + \phi_1) \\ \dot{y}_2 &= -\omega_{20}a_2 \sin(\omega_{20}t + \phi_2) \end{aligned} \quad (13.58)$$

である。

平均法の手順に従って、式(13.55)の $y_1, y_2, \dot{y}_1, \dot{y}_2$ を、形はそれぞれ式(13.57), (13.58)と同じであるが、 a_1, a_2, ϕ_1, ϕ_2 が時間のゆるやかな関数であるとする。この結果 a_1, a_2, ϕ_1, ϕ_2 を定める式として

$$\left. \begin{aligned} \omega_{10}\dot{a}_1 &= -\omega_{10}\varepsilon\zeta_1 a_1 + \frac{3}{8}\varepsilon\alpha Q^2 a_2 \sin(\sigma t + \phi_1 + \phi_2) \\ \omega_{10}a_1\dot{\phi}_1 &= \frac{3}{8}\varepsilon\alpha(a_1^2 + 2a_2^2)a_1 + \frac{3}{4}\varepsilon\alpha Q^2 a_1 + \frac{3}{8}\varepsilon\alpha Q^2 a_2 \cos(\sigma t + \phi_1 + \phi_2) \\ \omega_{20}\dot{a}_2 &= -\omega_{20}\varepsilon\zeta_2 a_2 + \frac{3}{8}\varepsilon\alpha Q^2 a_1 \sin(\sigma t + \phi_1 + \phi_2) \\ \omega_{20}a_2\dot{\phi}_2 &= \frac{3}{8}\varepsilon\alpha(a_2^2 + 2a_1^2)a_2 + \frac{3}{4}\varepsilon\alpha Q^2 a_2 + \frac{3}{8}\varepsilon\alpha Q^2 a_1 \cos(\sigma t + \phi_1 + \phi_2) \end{aligned} \right\} \quad (13.59)$$

を得る。またここでは $2\omega \doteq \omega_{10} + \omega_{20}$ の場合を考えているので

$$\sigma = \omega_{10} + \omega_{20} - 2\omega \quad (13.60)$$

は小さな量であり、したがって式 (13.59) の右辺に、これを含んだ項が残されている。式 (13.59) を解いて、 a_1, a_2, ϕ_1, ϕ_2 を定め、式 (13.57) に代入して……

○p.165～p.166

(p.165 の式(13.61)下の行から、p.166 の最後の行までに表れる文中の式番号のうち、式 (13.58) はすべて式 (13.59) に変更します (7箇所))

以上 ④